

エフエム八ヶ岳番組審議会報告

■2019年1月

エフエム八ヶ岳の第148回番組審議会は2019年1月19日、北杜市小淵沢町のエフエム八ヶ岳演奏所ホールで開かれました。新年度からの番組改編について意見を交わしました。坂本仁委員長、三井としゑ、田丸博之、田丸良比古の各委員と放送局側から山本昭理事が出席しました。

2006年開局以来、10年以上続いてきた番組が終了したり、変更したりする計画があります。

- ・「トラットリア・アルプス」3月で終了：後継予定「山梨てーへんだチャンネル」
- ・「八ヶ岳ミステリー・ツアー」3月で終了：後継未定
- ・「八ヶ岳今昔 峡北の方言」改編：未定
- ・「ミアキス RE・GROW」改編：未定

などが予定されている主な新番組、番組改編です。

委員からの主な意見は以下の通りです。

- ・ 観光地であり、別荘地であることから、団塊の世代をメインターゲットにしたクラシック、ジャズ、オールディーズを中心にした音楽、転入組を意識した話題などを据えて放送してきたと伺っている。しかし4年前に、商業地の韮崎市にサテライト・スタジオを開設し、聴取者層がより広範に、多様化してきたという放送環境の変化があった。そのためリスナー像がつかみにくくなったことによって、番組製作がより難しくなったのではないかと
- ・ 改編の仕方によっては、従来の団塊世代リスナーが遠ざかってしまうし、あまり堅い内容の番組を並べていても若い世代がそっぽを向いてしまう、といったジレンマがある
- ・ 女性の立場からすると、これまでの放送内容で行けばいいと思う。これまで品の良いラジオ局としてのイメージをつくってきたのだ。12月の「水の山 こども情報局」のような地域の子供からお年寄りまで参加できるような番組がいいと思う
- ・ 一方でリスナーの高齢化に合わせた番組、もう一方では商業地域の青年層や40、50歳代の方が楽しめるような番組を、曜日ごとに変化をつけて制作したらいいかと
- ・ 高齢者は夜は8時から9時には就寝、朝は3時ごろから目が覚めている。NHKの「ラジオ深夜便」をよく聞いているが、寝床でイヤホンをつけて聴いていて、まさにいい友達。エフエム八ヶ岳の番組は朝10時、正午、夕方6時に基点を置いて自主番組を放送しているが、深夜から明け方にかけて流している東京の放送を、自主番組に代えられないかと
- ・ この時間帯は北杜市の高齢者で、退職組、農業従事者問わず、三分の一は起きていると思われる。自主番組の良い提供機会になると思う
- ・ もっと健康番組の番組を充実していただきたい。そこにはマイクの向こう側で、リスナーがこぞって参加できる「笑いヨガ」なんか、放送したらいいと思うが…。
- ・ 4月からの番組改編メニューを見ると、内容的にはほぼ従来と大きな変化はないようだ。それはそれでいいと思う。ここに奥行と言うか、ちょっとした変化球のようなものだが、中継番組を考慮してみてはどうか。行政などが主催して行っている講演、コンサート、歌手

のリサイタルなどの催し物は、ごく一部の市民が参加するだけで、ほとんどの人は知らずに過ごしている。それを収録させてもらって放送することはできないか

- 農家をやっていてほとんど畑で作業していることが多く、ラジオはその作業中に聞いているわけだが、クラシック、ジャズ、そしてアメリカンポップスなんかになじみが薄い。リスナーの層が幅広くなったということもあるが、歌謡曲番組なんかを作ってほしい。いま午後2時から毎日放送している洋盤中心の「あの日が空から舞い降りて」のように、歌謡曲・演歌編をもを作ってほしい。「昭和の歌謡曲ベスト10」みたいな。私の周辺の農家でもこうした声は多くある。